

大綱5 環境

ページ	政策	該当箇所	現行計画	見直し案（第3回審議会時点）	見直し理由	備考
36	1	現状と課題	地球温暖化や生物多様性の <u>衰退</u> をはじめとするさまざまな環境問題に直面する中、	地球温暖化の進行による気候変動や生物多様性の <u>喪失</u> をはじめとするさまざまな環境問題に直面する中、	5 個別計画等	第3次環境基本計画（R2.2）
36	1	現状と課題	しかし、 <u>市域のエネルギー消費量は、さらなる削減が必要であり、適切なエネルギー利用を促進するなど、低炭素社会への転換に向けた取組の強化が必要です。</u>	しかし、 <u>世界規模では依然として二酸化炭素の排出量は増加しており、今後一層の地球温暖化が懸念される中、本市においても持続可能な社会の実現のため、エネルギー消費量はさらなる削減が必要であり、適切なエネルギー利用を促進するなど、令和32年（2050年）までに市域の年間温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標に向け、低炭素から脱炭素社会への転換に向けた取組の強化が必要です。</u>	5 個別計画等	第3次環境基本計画（R2.2）
36	1	現状と課題	市域で排出されるごみは、 <u>減少傾向にあります</u> が、リサイクル率は目標を下回っています。	市域で排出されるごみは、 <u>減少傾向にありましたが、近年は横ばい傾向であり、リサイクル率は目標を下回っています。</u>	7 その他	近年のごみの排出量の動向に沿った修正
36	1	現状と課題	ごみの減量とともに、リサイクル率の向上に向けた取組の充実を図る必要があります。	資源循環の観点から人口増加に伴い増加が懸念されるごみの減量とともに、リサイクル率の向上に向けた取組の充実を図る必要があります。	7 その他	近年のごみの排出量の動向に沿った修正
36	1	現状と課題	(追加)	地震や風水害等で発生する災害廃棄物を円滑に処理する対応も急務となっています。	3-1 緊急事態事象	
36	1	現状と課題	(追加)	さらに、地球温暖化に伴う熱中症による健康被害への対策を含む新たな対応が必要です。	3-2 暑熱環境の悪化	
36	1	現状と課題	また、大気や水質、騒音などは環境目標をほぼ達成していますが、 <u>市民意識調査によると快適な生活環境に関する満足度は低くなっています。</u>	また、大気や水質、騒音などは環境目標をほぼ達成し、市民意識調査によると快適な生活環境に関する満足度は令和4年度（2022年度）の調査では平成26年度（2014年度）に比べ上昇しています。	7 その他	令和4年度調査の実績を追加することに伴う修正
36	1	現状と課題	エネルギーや資源、自然共生を大切にしたいライフスタイルや事業スタイルへの転換を促進する必要があります。	本市の環境政策の基本理念である「もったいない精神」に立ち返り、エネルギーや資源、自然共生を大切にしたいライフスタイルや事業スタイルへの転換を促進する必要があります。	5 個別計画等	第3次環境基本計画（R2.2）
37	1	施策5-1-1	(追加)	熱中症による健康被害を回避するため、国とも連携し、基礎調査や啓発活動、情報発信などの取組を進めます。	3-2 暑熱環境の悪化	
37	1	施策5-1-3	公害の未然防止や早期解決のため、	公害及び産業廃棄物の不適正処理の未然防止・早期解決のため、	1-1 中核市移行	
37	1	施策指標5-1-1	(追加)	市域の年間温室効果ガス排出量	指標1 補完追加	成果指標を追加
37	1	施策指標5-1-2	「マイバッグ」の持参率 目標 <u>80%</u>	「マイバッグ」の持参率 目標 <u>87%</u>	指標2 個別計画・取組内容との整合性	第3次環境基本計画（R2.2）
37	1	施策指標5-1-3	「環境美化推進団体」の団体数 目標 <u>40団体</u>	「環境美化推進団体」の団体数 目標 <u>60団体（現行：40団体）</u>	指標2 個別計画・取組内容との整合性	環境美化推進のためには、更なる市民、事業者との連携が必要であり、上方修正

ページ	政策	該当箇所	現行計画	見直し案（第3回審議会時点）	見直し理由	備考
37	1	関連する主な個別計画	(追加)	○地球温暖化対策新実行計画 ○一般廃棄物処理基本計画 ○災害廃棄物処理計画	5 個別計画等	地球温暖化対策新実行計画（R3.2） 一般廃棄物処理基本計画（R4.2） 災害廃棄物処理計画（H30.7改訂）